



学校だより 令和4年10月5日 No. 300

柏崎市立柏崎小学校

柏崎市学校町1番88号

TEL0257-22-2196 FAX0257-24-0304

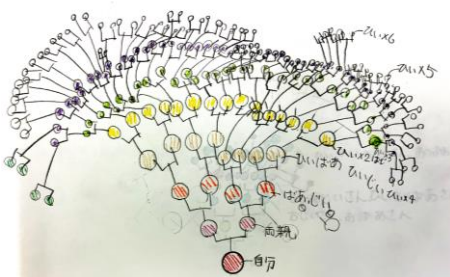
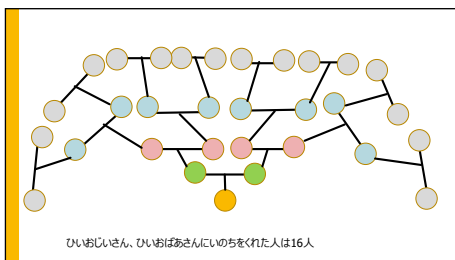
HPhhttp://kedu.kenet.ed.jp/hakushou/

E-mail hakushou@kenet.ed.jp

いのちのバトン (つながریان講話②から)

校長 竹田 充

9月6日(火)のつながریان講話では、「命のバトン」を題材に全校道徳を行いました。人間は一人で生まれてきたのではないことを実感してほしい。自分の親や先祖からのかけがえのない命の流れを想像してほしいと考えたからです。パワーポイントを示しながら、次のような話をしました。



自分の番 いのちのバトン
父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で千四百人
二十代前では……
なんと百千人を越すんです
過去無量の
いのちのバトンを受けついで
いまここに
自分の番を生きています
それが
あなたのいのちです
それがわたしの
いのちです

『いのちのバトン』相田みつを(H17.7 角川文庫)

「あなたに命をくれたのは誰？じゃ両親の命は誰から？おじいさん、おばあさんだね。その両親はひいおじいさん、ひいおばあさん。その人たちにも両親がいるよね。さあ、この命のつながりがどこまで続くか、クラスで10分間、図に書いてみましょう。」

教室を回ってみると、黒板いっぱい全員で次々につないでいるクラス、一人一人が黙々と紙に書いているクラスなど様々でした。命のつながりの図を描きながら「うわ～こんなに続いているんだ」「ぼくのご先祖様はいっぱいいる！」など、子どもたちは驚きの声を上げていました。その様子をズームで紹介してから、次のような話をしました。

「10代前だと1000人を超えますね。すごい数のご先祖様です。ただ、もっとすごいのは、例えばこの中のたった一つの○、誰か一人のご先祖様がいなかったら、今あなたはここにいないということ。あなたが今ここにいるということ、これは奇跡のような確率です。」

最後に相田みつをさんの詩を読み、各クラスで感じたこと、考えたことを交流し合いました。以下は子どもたちの感想です。

○ご先祖様が一人でもいないと、ぼくは存在しないんだなと知りました。ぼくが生まれたのは、奇跡なんだなと思いました。あらためて命の大切さについて知りました。お母さんとお父さんに感謝したいです。(3年生)

○やっぱり命って不思議だなと思いました。ずっと図をかいていたら、そのうち一億や一兆ぐらいになりそうです。ずっと続いているんだなと思いました。もっと命を大切にしたいです。(4年生)

○紙に書いたのを見てびっくりしました。私はこんなにたくさんの人の命のバトンで生まれてきたんだなと思いました。…私もこの中の一人になって次にバトンを渡すと思うと少しドキドキします。ずっとこのバトンが続けばいいなと思います。命を大切に生きていきます。(6年生)

○先祖の多さがとてもよく分かりました。ぼくで命のバトンを途切れさせちゃダメだなと思いました。改めて、つないできた先祖の皆様に感謝したいです。そして、自分の命だけでなく、他のみんなも命のバトンを受けついでいるので、他の人の命も大切にしたいです。

す。もちろん自分の命も大切にしていきます。(6年生)

